

# 「恥」乗り越え 会いたい

## 差別・いじめそれでも募

### 父を捜して

オランダ日系2世の戦後69年

オランダの日系2世「」たちが、日本人の父親を捜している。反日感情の強い社会で、差別やいじめに苦勞した「戦争の落とし子」だ。戦後69年。人生の晩年を迎えた今、「ルーツ」への思いを募らせる2世たちを、オランダに訪ねた。



「戦争で引き裂かれた犠牲者」

## メモ頼りに父と対面

5月29日、札幌市。待ち合わせ場所に現れた男性(61)は、鼻、口、顔の輪郭、体格、どこをとっても、ヒロシ・デ・ウインタールさん(68)にそっくりだった。同じ父親を持ち、男性は「弟」にあたる。「落ち着いて聞いて。実は、君に兄がいる」。親族から突然、知らされたのは2011年。「オランダ人なんだ」。頭が真っ白になったと男性は振り返る。記者はオランダで、ヒロシさんにも会った。1946年4月、インドネシアの

### 「父のことを知りたい」日系2世のひと言

- |   |  |
|---|--|
|    | ジョイス・コムダーさん(67)<br>父は東部ジャワのマランにいた軍人の「ヤマシタ」。母は何も語らず1985年に死んだ。仮に戦犯だったとしても、父のことを知りたい  |
|    | エドワード・レーマンさん(68)<br>父は「ムラカミマコト」。戦後、旅行会社などに勤め、77年に大阪市で死んだと聞いた。母が愛した父はどんな人だったのか知りたい  |
|   | フレッド・アウヘンスタインさん(69)<br>父が日本人と知ったのは昨年。おばによると、病死した母は中部ジャワ・テガルの日本軍人用のパーで、父の「ナカノ」に出会った |
|  | テレゼ・テル・ハイデさん(68)<br>私の日本名はケイコ。2歳上の姉はレイコ。父は東部ジャワのヌガンジユクで警察官だった「モリタダシ」。写真がほしい        |
|  | ヨーケ・ステファン・ハウトさん(67)<br>父はジャワ島のコドソノで、鉄道関係の仕事をしていた「ヤマダ」。母より10歳年上だったが、母の家族の暮らしを支えてくれた |
|  | ユール・カウフスベックさん(69)  |

### オランダの日系2世

インドネシアを植民地にしていたオランダの女性と、戦時中の1942年

にインドネシアを占領した日本軍の関係者や民間人との間に生まれた。戦後、連合国の方針で日本人の大半は単身帰国。インドネシアでは独立戦争があり、多くの母子、2世は80、るが、反日感ない母親も

# 「も募る出自への思い

日本人の父親を捜し  
いじめに苦勞した  
生の晩年を迎えた  
世たちを、オランダ

## 「犠牲者」

## と対面

じ父親を持ち、男性  
にあたる。

ち着いて聞いて。実  
に兄がいる」。親族  
然、知らされたのは  
1年。「オランダ人  
」。頭が真っ白にな  
男性は振り返る。  
はオランダで、ヒロ  
にも会った。194  
月、インドネシアの



ジャワ島生まれ。母はオラ  
ンダ人。父は日本人で、綿  
花づくりに携わっていた。  
オランダ政府によると、戦  
争中、日本軍はインドネシ  
アで捕虜4万人と民間人9  
万人のオランダ系住民を強  
制収容所に抑留。栄養失調  
などで2万人以上が死ん



ヨーケ・  
ステファン・ハウトさん(67)  
父はジャワ島のコドソノで、鉄道  
関係の仕事をしていた「ヤマダ」家  
母より10歳年上だったが、母の  
家族の暮らしを支えてくれた



ユール・  
カウフスベックさん(69)  
父が日本人と知ったのは2000年。  
おばによると、父はジャカルタに  
いた将校「ヨコイ」。母とは恋愛  
関係だったと聞いている



フランス・  
ハーベルマンズさん(68)  
孤児院で育った。いじめられ、犯  
罪者になってもおかしくなかつ  
た。父はスマトラ島の軍施設で食  
糧を管理していた「ワタナベ」

本軍の関  
た。戦後、  
は単身帰  
るが、反日感情が強い中、事実を明かさ  
ない母親もいるとされ、実数は不明だ。

だ。ヒロシさんは「日本人  
の子」といじめられた。  
女手ひとつで育ててくれ  
た母は、父を思いながら、  
93年に死亡。母が保管して  
いた父の手書きのメモに、  
実家の住所が記されていた。  
それを手がかりに、  
「弟」へとどりついた。  
11年秋に来日。弟に案内  
され、認知症を患う父に、  
施設で初めて会った。抱き  
しめて、母が大切にしてい  
た若いころの父の写真を見  
せた。驚いたような顔をし



ロブ・  
シプケンスさん

## 「たとえどんな悪人でも」

## 反日の感情薄れ 捜す

「恥」は、日系2世を苦  
しめてきた感情でもある。  
「自分は恥の子」。オラ  
ンダ南部に暮らすロブ・シ  
プケンスさん(68)は25年前  
に「実父は日本人」と知っ  
てから、ずっとその思いに  
悩まされ続けてきた。

母の一家はジャワ島のプ  
カロンガンで暮らしてい  
た。白人の祖父は日本軍の  
捕虜となり、祖母や母は軍  
の食堂などで働かされた。  
憲兵に乱暴されそうにな  
った母は、父に一度は助け

## 過ぎる年月 肉親捜しに「壁」

日系2世の父親捜しは本格化して  
いる。戦後も70年近くが過ぎ、当時を  
知る関係者の多くが他界。危機感を  
募らせたオランダ在住の日本人研究  
者らが2012年、「アジア太平洋戦争日  
本関連史資料および学術連絡支援財  
団(SOO)」を設立した。フィリピン  
日系2世の身元捜しに実績のある日  
本のNGOや、戸籍謄本の写しを取  
れる法律事務所とも連携。これまで  
に約40人の父親が判明したが、多く  
は死亡していた。半数は親族に拒ま  
れ、墓参も実現していない。残る2世  
はSOOに「最後の望み」をかける。

て、泣き出した。  
しかし、ヒロシさんのよ  
うに、父や家族が会ってく  
れる例はごくまれだ。男性  
は言う。「『恥』という感  
覚なのでしょうか。でも、  
戦争で無理やり引き裂かれ  
た彼らは、犠牲者だよね」

日系2世を戦争被害者と  
して招く外務省の事業で、  
日本に10日間滞在した。礼  
儀正しく、自分の生い立  
ちに熱心に耳を傾けてくれ  
る優しい日本人がいた。  
「日本人の血を引いたこと  
は恥ではない」。そう思え  
た。  
行く先々で、いつも日本  
語で話しかけられた。外見  
が日本人だからだ。「異  
物」扱いされず、社会に溶  
け込んでいる感じが心地よ  
かった。今は懸命に父親を  
捜す。父の姓は「カワバ  
タ」。「たとえどんな悪人  
だったとしても、父を知り  
たい。それは自分のルーツ  
だから。自分の半分の錯  
が、そこにあるのだから」  
(編集委員・大久保真紀)

体験型オープンキャンパス  
6/8(日)11時から  
**日本工業大学**